

●景観形成の視点

公園・緑地は、都市の中の自然環境の拠点であり、同時に身近なクリエイションの機会を提供する場である。それぞれの公園の性格と立地特性に基づいて、地域環境を活かしながら魅力と個性に富んだ公園や緑地景観を創り出す。

(サブテーマ)

自然を生かす

(展開項目)

○自然を守り、生かす

(キーワード)	(配慮すべき事項)	(参照)
〔自然環境の保全〕	1. 地域の公園では現況の自然、生態系を保全し、整合を図りながら利用空間を設定する。 2. 都市部の公園においては、御嶽や樹木など地域の身近な自然資源を保全し、公園計画に活かす。	
〔自然環境との調和〕	3. 土地造成では、できる限り現状の地形に調和させるとともに、緩やかで有機的な、無理のない地形造成を行う。 4. 公園や緑地内の構造物は、その構造美を主題とする場合以外はスケールや形態、おさまり等において自然環境との調和に配慮する。 5. 構造物の素材には自然素材やより自然になじむ素材を用いる。	P.27 デザイン4(2) P.33 デザイン6(1) P.42 デザイン10

(サブテーマ)

自然を生かす

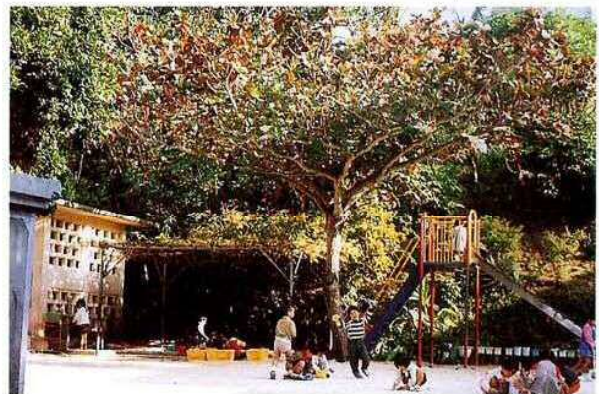
(展開項目)

○自然を回復し、創り出す

(キーワード)	(配慮すべき事項)	(参照)
〔豊かな緑の創出〕	1. 公園は沖縄の風土特性が最大限に表出された場所として、おおらかできめ細やかな庭園イメージの施設づくりを行う。 2. 公園・緑地内では、亜熱帯の緑・花・水が豊かな親水・親緑空間を随所につくる。	P.15 デザイン2(2)



● ゆるやかに地面の起伏をつくり、施設を地形になじませる。
(県総合運動公園)



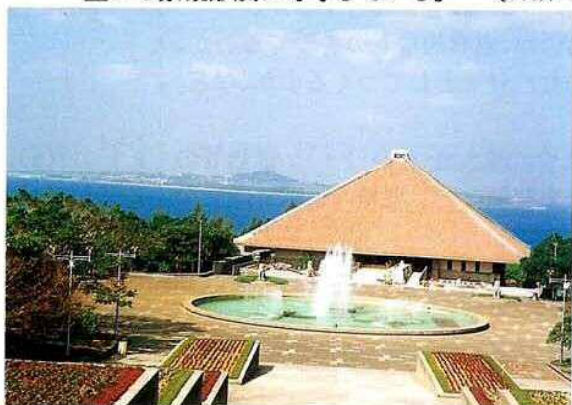
● 公園では豊かな緑をつくり、緑陰樹を積極的に配する。
(那覇市、首里)



● 公園のなだらかな盛土造成が、道路視点での豊かな景観形成に寄与している。(シガポール)



● 広場にはできるだけ緑陰をつくる。(竹富島)



● 水のある広場。(海洋博記念公園)



● 緑陰の休息ベンチ。(名護市庁舎)



● 施設、構造物を緑に溶け込ませる。(沖縄市、東南植物楽園)



● 自然の素材を積極的に用いた公園内の施設。(シガポール)



● 植物をメインの要素として広場の風景をつくっている。(シガポール)



● 自然素材を用いたストリートファニチャー。(県立運動公園)

(サブテーマ)
文化を活かす

(展開項目)
○地域から学び、地域になじむ

(キーワード)	(配慮すべき事項)	(参照)
〔地域の顔づくり〕	1. 公園・緑地の整備に際しては、その種類と地域における位置づけや立地特性などから、計画特性を把握する。そのうえで景観整備の方向づけを明確にし、地域の顔となる公園・緑地をつくる。 〔整備の方向づけ〕・当該公園・緑地が、 - 自然を主題とするか、施設を主題とするか、 - 庭園風につくるのか、自然的なものをつくるのか、 それとも都市的なデザインとしてつくるのか、など。	
〔景観資源の活用〕	2. 自然林や樹木などの自然資源や、湧水池・井泉(かゝ)、御嶽等の伝統的資源、史跡・文化財等の歴史資源など、地域の景観資源を公園内に取り込み、活用する。	P.1.8 デザイン2(5) P.2.5 デザイン3(11)

(サブテーマ)
文化を活かす

(展開項目)
○文化を受け継ぎ、育む

(キーワード)	(配慮すべき事項)	(参照)
〔歴史・文化イメージの表出〕	1. ストリートフェニチャーなどの公園内施設においては、沖縄の歴史・文化を表出した個性豊かなものを検討する。	P.2.9 デザイン5 P.4.6 デザイン11
〔素材と地場産業〕	2. 公園内の施設の素材として地場の素材や産物を積極的に用いる。	P.4.2 デザイン10



●井泉(かゝ)と公園とが一体となって地域の人々の憩いの場となっている。(伊是名島 伊是名)



●焼き物をはめ込んだ公園遊具(石川市、白浜公園)

(サブテーマ)
くらしを彩る

(展開項目)
○開かれた場を創りだす

(キーワード)	(配慮すべき事項)	(参照)
[開かれた敷地際]	1. 公園・緑地はそれ自体が地域の景観資源となる。従って、その敷地際は周辺に対して開かれた形態とする。	P.3 ⁸ デザイン8(2)
[周辺部との一体]	2. 街路や河川、公共・公益施設、その他のオープンスペースが隣接する場合、それらと公園の施設際を一体の空間として整備することで、その機能と空間のひろがり確保する。	P.3 ⁸ デザイン8(2)
[眺望の場所]	3. 周辺の景観や公園全体を見渡せる場所を眺望スポットとして整備する。	P.3 ⁵ デザイン7(1)

(サブテーマ)
くらしを彩る

(展開項目)
○いきいきとした場をつくる

(キーワード)	(配慮すべき事項)	(参照)
[多様な活動の場づくり]	1. 公園・緑地内に導入される様々な機能、敷地の形態、資源分布などを把握し、ゾーンの設定と施設配置を適切に行い、多様な活動の場をつくる。	
[めりはりのある景観]	2. 公園内の見通しができるような軸線を導入し、めりはりのある景観形成に配慮する。 3. 必要に応じて、新しい地形をつくる等、めりはりのある景観形成を検討する。	P.3 ⁵ デザイン7(1) P.2 ⁷ デザイン4(2)
[夜間の演出]	4. 場所に応じて、夜間も快適・安全に利用できるよう、照明設備を設けるとともに、夜間の演出を図る。	



●ポムナド等の軸線・景観を舗装や植栽、水等の様々な要素で構成する。
(宜野湾港 港湾緑地基本計画・基本設計、1991.3、沖縄県)



● 公園広場の整備により、都市に貴重なひろがり景を創出している。
(シブール)



● 歩道と公園の加けだを一体化し、せせらぎを導入している。
(那覇市 小禄金城公園)



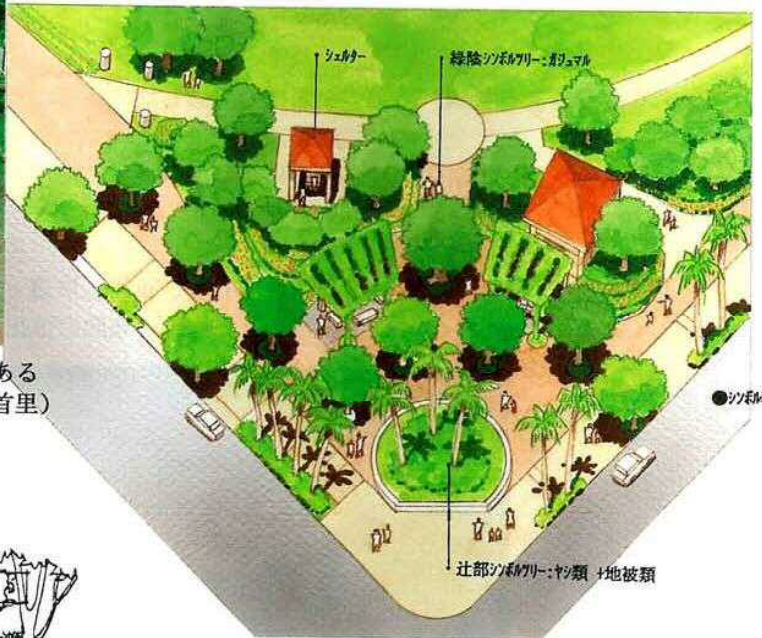
● 中心軸の景観とアイストップの石造ゲート。(今帰仁城跡)



● 積極的に公園内で親水空間を形成させる。
(沖縄市、東南植物楽園)

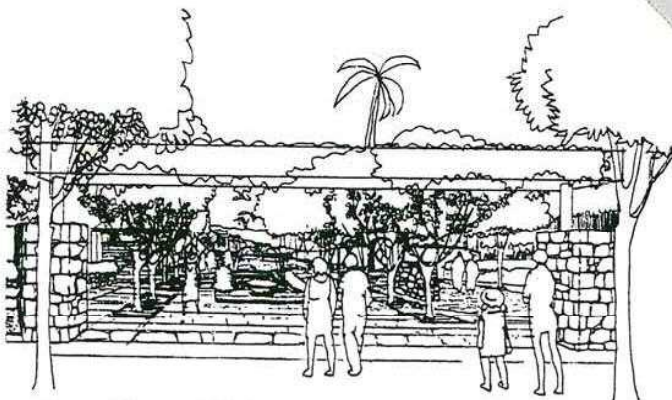


● 舗装や擁壁、障壁などの構造物は、親しみのあるイメージとする。
(那覇市、首里)



■ 辻スポットのイメージ

● 公園の敷地が道路の辻と隣接しているところは、辻との空間連続性、辻に向けての顔づくりに配慮する。



● エントランスの表情をしつらえる。
(宜野湾港 港湾緑地基本計画・基本設計、1991.3、沖縄県)

● 景観形成の視点

沖縄の墓地は、伝統的な風水の考え方に基づいて特徴的な立地と形態を持っている。そこでは伝統的な行事が継承され、地域社会の大切な場所となっている。沖縄らしい墓地の形態を活かしながら、優れた墓地・墓園の景観づくりを促進する。

(サブテーマ)

自然を生かす

(展開項目)

- 自然を守り、生かす
- 自然を回復し、創り出す

(キーワード)	(配慮すべき事項)	(参照)
〔自然環境の保全〕	1. できる限り墓地周辺の樹林など、周辺一帯の自然の保全を図る。	P.15 デザイン2(2)
〔公園としての整備〕	2. 墓地の整備を緑地整備の一環として位置づけ、広場、植栽、便益施設などを適宜配置し、墓地公園として一体的な整備を図る。	P.38 デザイン8(2)

(サブテーマ)

文化を活かす

(展開項目)

- 文化を受け継ぎ、育む

(キーワード)	(配慮すべき事項)	(参照)
〔伝統的景観の継承〕	1. 墓地の密度や空間構成は、沖縄の伝統的な形式に配慮し、落ち着きや静けさを保つ、ゆとりのある空間形成に努める。 2. 墓地は周辺からの景観に配慮し、緑地帯などの緩衝帯を設け、視線の調節を図るなど、景観になじませる。	P.33 デザイン6(1) P.37 デザイン8(1)



● 沖縄の伝統的な墓地景観。



● 墓地の背後林は保全する。

● 景観形成の視点

自動車交通への依存度の高い沖縄では、駐車場の需要はますます高まる傾向にある。多くの場合、駐車場として施設周辺の残地や空地が利用され、しばしば煩雑な景観となっている。都市部での体系的な駐車場整備を進めるとともに、環境面に配慮した潤いのある駐車場づくりを促進する。

(サブテーマ)

自然を生かす

(展開項目)

○自然を回復し、創り出す

(キーワード)	(配慮すべき事項)	(参照)
〔豊かな緑の創出〕	1. 駐車場は緑豊かな広場のイメージを持たせる。 2. 都市部の立体駐車場では、上部を公園として整備することも検討する。	
〔自然環境との調和〕	3. 陽射しの強い沖縄の気候に配慮し、日影をつくり、陽光の照り返しを防ぐため、緑陰を設ける。 4. 舗装面には、芝生ブロック等の自然素材や透水性材料を用い、雨水の浸透を高めるとともに、地表面の温度を緩和することで環境条件の向上を図る。	P.1.1 デザイン1(1) P.1.3 デザイン1(4)

(サブテーマ)

くらしを彩る

(展開項目)

○開かれた場をつくる

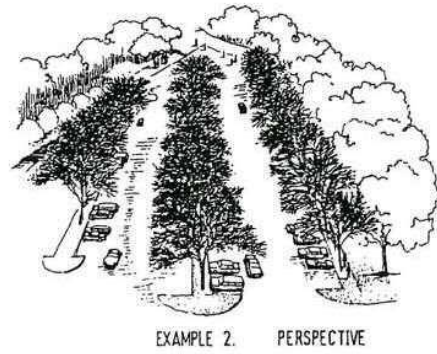
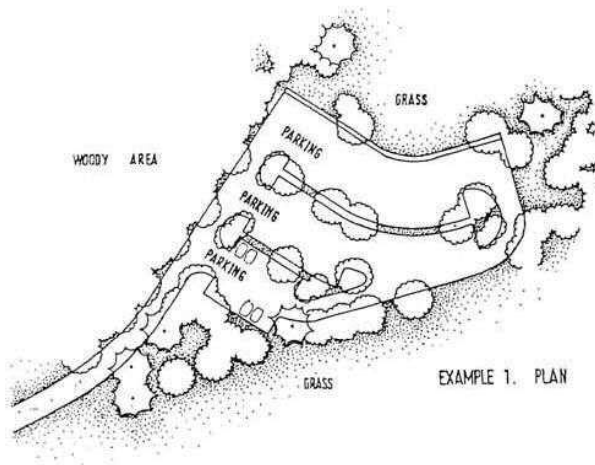
(キーワード)	(配慮すべき事項)	(参照)
〔広場としての整備〕	1. 臨時駐車場や公園内の駐車場では、駐車機能以外にも活用できるように、転用可能な多目的の広場として整備することも考える。 2. 駐車場は、排気ガスなどにより環境面と景観面で阻害要因となりがちなので、敷地際では緩衝植栽の導入や修景緑化を積極的に行う。	P.1.5 デザイン2(2)



● 枝張りのある樹種を選定し、大きな緑陰をつくる。
(糸満市)



● 豊かな緑陰の駐車場の計画モデル。
(シンガポール)



● シンガポールにおける駐車場での植栽配置計画モデル。
(「A GUIDE TO THE AERATION OF TREES」M. N. D. SINGAPORE)



● 透水性に配慮したブロック舗装により芝張りの駐車場を実現している。
(宜野湾市、真志喜)



● 立体駐車場を半地下とし、施設周りを緑化している。
(シンガポール)

●景観形成の視点

新しく開発される宅地や市街地は、道路網とともに宅地の形状や配置などの点で、単調で画一的な形態を避けるよう心掛ける。また、自然地形を重視し、周辺の既成市街地とのつながりを考慮したうえで、地区の個性を創り出し魅力ある宅地景観の形成に努める。

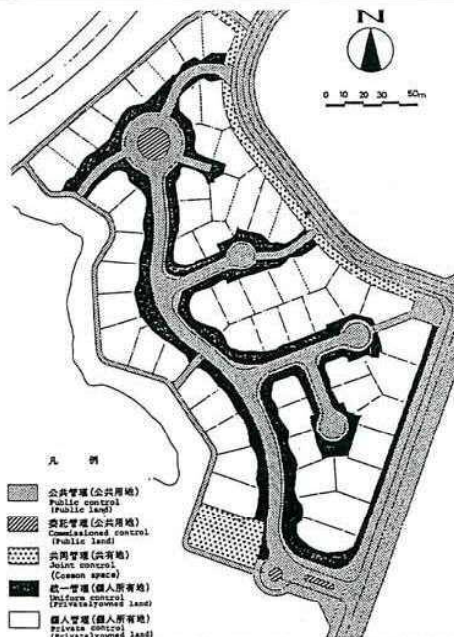
(サブテーマ)

自然を生かす

(展開項目)

○自然を守り、生かす

(キーワード)	(配慮すべき事項)	(参照)
〔自然環境の保全〕	1. 地域の環境保全上重要な緑は、保全・育成を図る。 2. 造成に際して、赤土などの土砂が流出・流失することの無いよう十分な対策を講じる。 3. 開発地を貫流する河川や水路、地下水脈などを保全し、下流の井戸水や湧水池を損なうことのないよう配慮する。 4. 大きな地形改変が抑えられるように、現況地形にできるだけ調和した造成を検討する。	P.25 デザイン3(11)
〔豊かな緑の創出〕	5. 開発地全体の緑化率・緑被率を高め、緑豊かな地区の形成に努める。 6. 地区の緑の骨格となる公園・緑地、幹線道路、歩行者専用道路等は、有機的な配置とネットワーク化を図り、豊かな緑を創出する。	P.27 デザイン4(2)
〔資源のサイクル〕	7. 表面雨水を植栽涵養や修景水へ活用するなど、中水の循環・再利用を検討する。 8. 現況樹林地の表土をストックし、植栽地の改良土壌へ活用することを検討する。	P.15 デザイン2(2)
		P.13 デザイン1(4)



●シブサ-ルでは、開発担保地に対しても、芝生や修景木を整備するなど修景面で配慮している。(シブサ-ル)

●ゆるやかな微地形と調和した宅地造成事例
(中城湾港マリノ-タウン-プロジェクト景観計画 H.5.3 沖縄県)

(サブテーマ)

文化を活かす

(展開項目)

○地域から学び、地域になじむ

(キーワード)	(配慮すべき事項)	(参照)
[地域特性の把握] [地区の顔づくり]	<ol style="list-style-type: none"> 1. 計画に際しては、周辺地域の土地利用特性や都市構造を把握したうえで、地区と周辺とのつながり方や、地区際用途や構造に配慮する。 2. 土地利用計画や街路・地区計画に対して景観形成面での検討を加え、地区全体の良好な景観形成を図る。 3. 地区内のまとまりある景観は、それぞれが個性と特徴のある地区景観を形成できるよう検討する。 4. 伝統的な集落空間要素や、歴史・文化財等、地域の景観資源の活用を図る。 	P.2.8 ティーサイン4(4) P.3.6 ティーサイン7(2)

(サブテーマ)

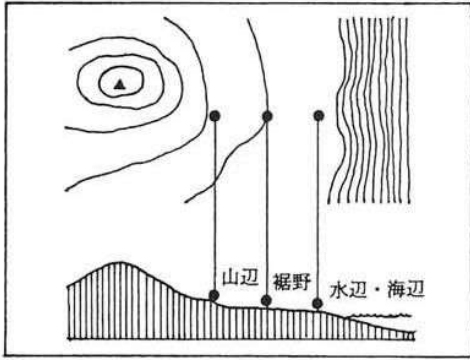
くらしを彩る

(展開項目)

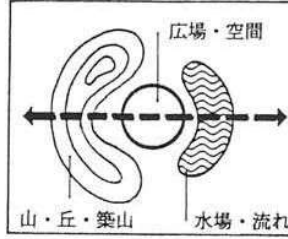
○いきいきとした場をつくる

(キーワード)	(配慮すべき事項)	(参照)
[めりはりのある景観] [すっきりとした 街並景観] [快適なオープンスペースの 形成] [適度なスケール]	<ol style="list-style-type: none"> 1. 画一的なひな段造成が形成されないことがないように、地形に合わせて宅地の分節化を図り、有機的で柔らかな地形造成を検討する。 2. 骨格緑地の基軸となる環境面での機能と歩行・走行の快適性を備えた緑道を設置する。 3. 地区周辺の宅地化・スプロール(宅地の外延化)に伴い、地区景観のまとまりが喪失することのないよう、地形や水筋による自然の境界部を保全し、緑地帯などの人工の境界部を新たに形成させる。 4. 建築物の刈り込みや連続する緑の樹冠などにより、めりはりのある地区景観をつくる。 5. 景観資源を活用した景観ノード(結節点)の形成や、道路軸でのビスタ(通景)の形成などにより、変化に富んだ地区景観を創出する。 6. 共同溝やキャブシステムを導入により電柱の地中化を図るなど、すっきりとした町並景観の形成に配慮する。 7. 地区内では人々が様々な活動を行うことができる場として、緑豊かなオープンスペースを随所に設ける。 8. 排水路や調節池などは、できるだけ自然になじむようにその形態や修景に配慮する。 9. 要所において、自然素材を積極的に用いる。 10. 擁壁等構造物はあまり大スケールな景観を呈さないよう、形態の分節化や修景緑化に努める。また、そのために必要な空間の確保に配慮する。 	P.2.7 ティーサイン4(2) P.3.7 ティーサイン8(1) P.3.5 ティーサイン7(1) P.1.2 ティーサイン1(3) P.3.7 ティーサイン8(1) P.4.2 P.3.3 ティーサイン10 ティーサイン6(1)

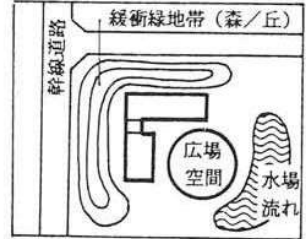
■クサテムイのイメージパターン



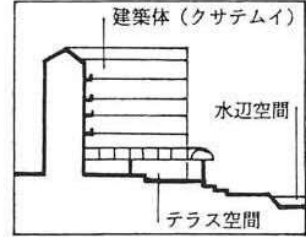
■クサテムイの活用
=公園広場型



■クサテムイの活用
=緩衝緑地型

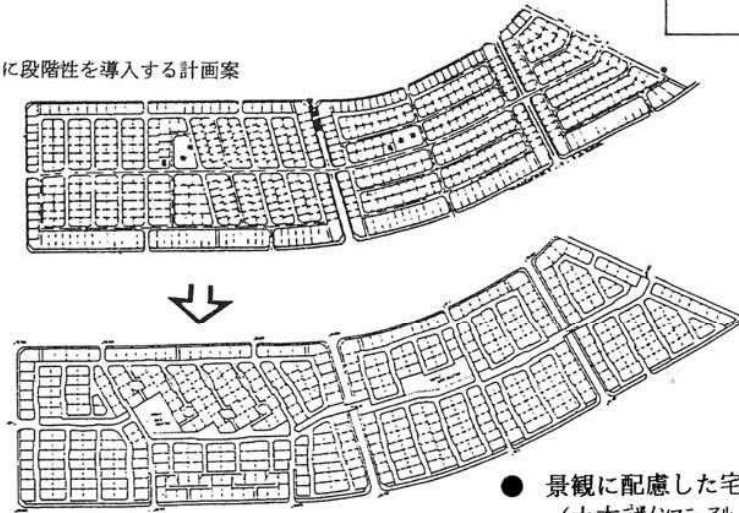


■クサテムイの活用
=建築空間型



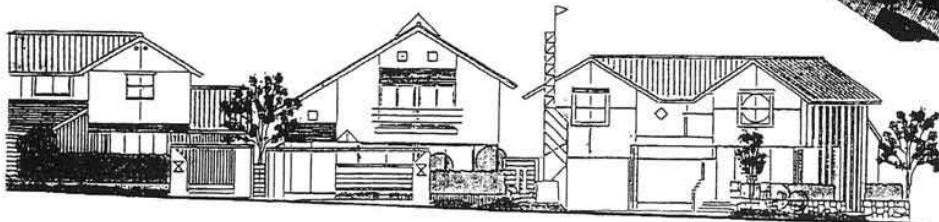
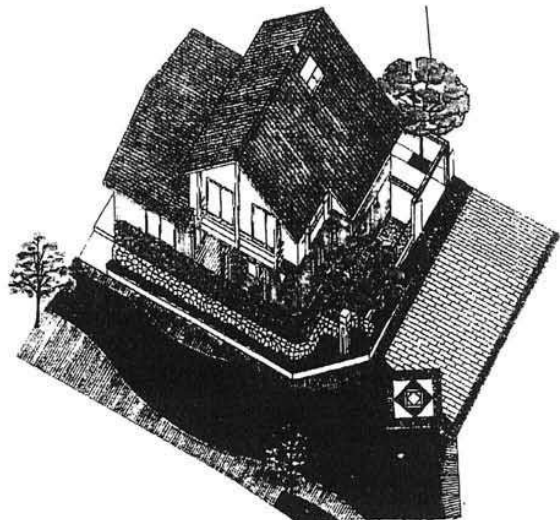
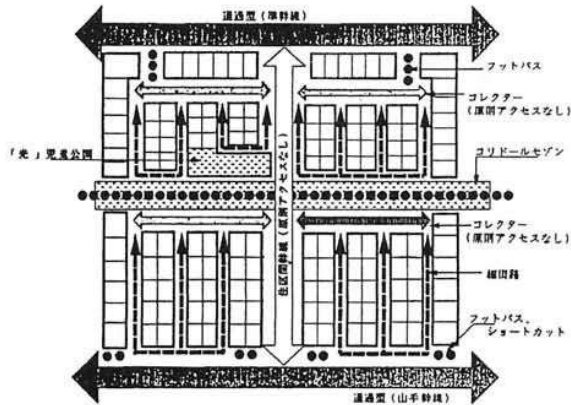
- 新しい街の各部に適用が図られる沖縄の原景観モデル。
(中城湾港マリン・タウン・プロジェクト景観計画、H. 5. 3、沖縄県)

●宅地造成 — 格子状街路に段階性を導入する計画案



- 景観に配慮した宅地造成の改善案。
(土木デザインマニュアル '90. 3、那覇市)

<東の住区>



- 街区ごとに景観形成を図り、個性のある街をつくる。
(京阪東ロースタウ開発計画、1992. 3)

● 景観形成の視点

空港やバスターミナル などの大規模な交通ターミナル は、多くの人々が行き交う玄関口として、沖縄県全体あるいは各地域の顔となる重要な場所である。それぞれのターミナルが立地する地域の性格や広がり を考慮し、それにふさわしいイメージを持った景観を創り出す。

(サブテーマ)

自然を生かす

(展開項目)

○自然を回復し、創り出す

(キーワード)

〔豊かな緑の創出〕

(配慮すべき事項)

1. 来訪者に沖縄の亜熱帯の風土を印象づけるような、南国の雰囲気に満ちた緑豊かな空間として整備する。

(参照)

P.16
デザイン2(4)

(サブテーマ)

文化を活かす

(展開項目)

○地域から学び、地域になじむ

(キーワード)

〔地域の顔づくり〕

(配慮すべき事項)

1. 地域や都市の玄関口として象徴的な顔をつくる。

(参照)

(サブテーマ)

くらしを彩る

(展開項目)

○いきいきとした場をつくる

(キーワード)

〔めりはりのある景観〕

(配慮すべき事項)

1. ターミナルなどの施設のデザインの工夫により、玄関口の景観演出に配慮する。
2. 海や入り日、都市のスカイライン、緑の稜線などを効果的に見せるような景観の演出を図る。
3. 人々がゆったりとくつろげる、緑や水が豊かなオープンスペースを積極的に設ける。

(参照)

P.35
デザイン7(1)P.16
デザイン2(3)

●ターミナルの玄関口を演出する辻部のシソルグリー植栽。
(那覇空港前)



●ターミナルでは沖縄を感じさせる玄関口の景観を形成させる。
(那覇空港)

●景観形成の視点

浄水場や下水処理場、ごみ焼却場などの供給処理施設は、生活に不可欠な要素でありながら、施設の持つイメージや親しみの薄さのために迷惑施設とみなされがちである。施設の周辺環境との調和をはかりつつ、市民に親しまれるような優れた施設景観の形成を促進する。

(サブテーマ)
自然を生かす

(展開項目)
○自然を回復し、創り出す

(キーワード)	(配慮すべき事項)	(参照)
[豊かな緑の創出]	1. 施設際に、一定幅の緑地帯を設けることで、環境緩和や修景を図り、緑豊かな施設イメージを形成する。	P.15 デザイン2(2) P.37 デザイン8(1)

(サブテーマ)
文化を活かす

(展開項目)
○文化を受け継ぎ、育む

(キーワード)	(配慮すべき事項)	(参照)
[沖縄らしさの表出]	1. 施設の形態・素材・色彩等においては、沖縄らしさやその地域らしさに配慮し、歴史・文化的な要素をできるだけ取り入れる。	P.30 デザイン5(2) P.30 デザイン5(3) P.42 デザイン10 P.46 デザイン11

(サブテーマ)
くらしを彩る

(展開項目)
○開かれた場をつくり出す
○いきいきした場をつくる

(キーワード)	(配慮すべき事項)	(参照)
[施設イメージの向上]	1. 施設への人々の理解を深めるためのP.R(公報)施設や、水と緑豊かな公園、オープンスペースなどの魅力施設を整備することで、施設イメージの向上を図る。	